



## 中東・ヨルダンにおける障害のある方に対する支援

---




2018年度 2次隊 小倉大志  
2019年度 1次隊 植松達也

不特定多数の方が閲覧可能になる資料のため、安全上の理由から施設が特定される資料（写真）の公開は、差し控えさせていただきます。何卒宜しくお願い致します。

## 青年海外協力隊の概要

<b>事業概要</b>	青年海外協力隊は日本政府のODA予算により、独立行政法人国際協力機構（JICA:Japan International Cooperation Agency）が実施する事業。
<b>詳細</b>	開発途上国からの要請（ニーズ）に基づき、技術・知識・経験を持ち、「開発途上国の人々のために生かしたい」という人材を募集。選考、訓練を経て派遣。
<b>目的</b>	<ul style="list-style-type: none"><li>（1）開発途上国の経済・社会の発展、復興への寄与</li><li>（2）異文化社会における相互理解の深化と共生</li><li>（3）ボランティア経験の社会還元</li></ul>
<b>実績</b>	事業発足から50年以上という長い歴史をもち、これまでにのべ4万人を超える方々が参加している。

# ヨルダンの概要

正式名	Hashemite Kingdom of Jordan	地域	Asia アジア
首都	Amman アンマン	人口	1,020万人
言語	アラビア語 書言葉：アラビア語 (フスハー) 話言葉：ヨルダン方言アラビア語 (アンミーヤ)	通貨	ヨルダン・ディナール 1 JD = 約158円 0.25JD = 500mlのペットボトル1本
面積	9万8千平方km (北海道とほぼ同じ)		
			
			

# 特別支援教育センター・職業訓練の概要

## 施設概要

職員 所長 1名、指導教諭 5名、用務員 1名、  
清掃員 1名

職員構成 男性 2名、女性 6名

クラス 5クラス（低学年クラス 1、  
高学年クラス 2、職業訓練クラス 2）

生徒 10歳から30歳までの33名

生徒構成 男女比 5：1

パレスチナ系ヨルダン人が殆どで、生徒の中には、  
シリア系ヨルダン人、スーダン系ヨルダン人が  
通所している。

(2020年 3月 1日現在)

	知的障害	身体障害	精神障害 (発達障害)
合計	29	3	1

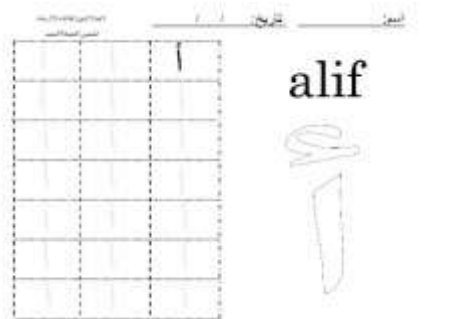
※重複障害がある場合は、身体障害及び精神障害でカウントしている

## 要請内容

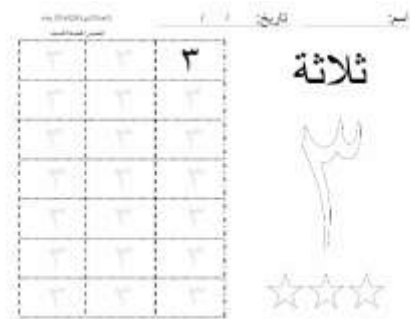
- 要 請
- 1 知的障害児に対し、音楽（歌や合奏）または美術（図画工作）、スポーツなど、児童が楽しめる活動を提供する。
  - 2 同僚教師に、音楽、美術、スポーツの指導方法の紹介および助言を行う。
  - 3 センターの障害児・者に社会参加の機会を提供する。
  - 4 余裕があれば、他の障害児支援分野ボランティアと協力しワークショップ等を開催する。

# 学習・作業指導

現地の学校で先生が生徒に教えていた教え方を模して作成したプリント



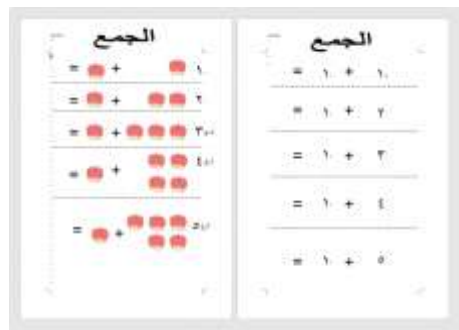
アラビア語



数字

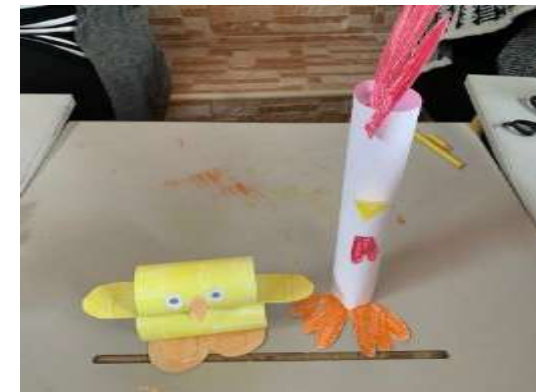
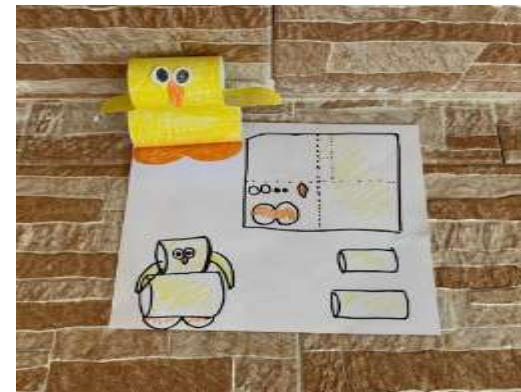


塗絵



数字

日本のように物が満足に買えないため、身近にあるもので工作の授業をしていた



# 職業訓練（機織り）

職業訓練として、機織を行っている。作成した織物は福祉主催のイベントを通して販売し、収益を施設運営費にしている。



# 障害者スポーツ/運動指導

パラリンピックセンターにて、練習会が月1回開催される。社会参加の一環として練習会に参加している。パラリンピック選手はこれとは別に練習しており、東京パラリンピック出場に向けて日々練習している。



# 知的障害支援団体・障害者就労支援施設の概要

## 施設概要

活動していた施設母体は、障害のある子どもを育てている保護者たちが集まってできた団体である。日本でいう、全日本手をつなぐ育成会と同じような団体である。就労に向け、雇用の説明、就労支援（ジョブコーチ）、雇用継続支援している施設である。

当団体は、ヨルダンで毎年開催されるジョブコーチ養成講座の指導者として、受講者に対し指導を行ったり、障害者雇用の推進に力を入れている。

## 要請内容

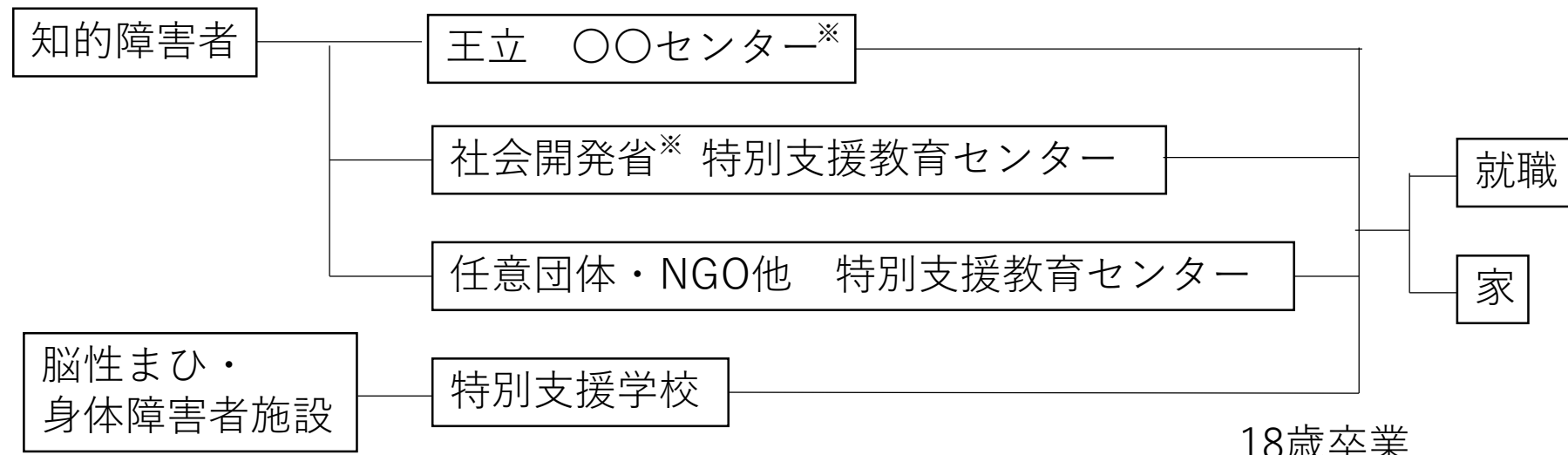
- 
- |     |   |   |
|-----|---|---|
| 要 請 | 1 | 企業からの要望に基づき、プログラスマネージャーとともに障害者をアセスメントを行う。 |
|     | 2 | 就労可能な障害のある方と企業に対するジョブコーチ（現場実習、就労支援）を行う。   |
|     | 3 | プログラスマネージャーの指導のもと、職場開拓のためのプランに参加する。       |
|     | 4 | 必要に応じて、新規授産施設の開拓、作業学習プログラムの策定と運用支援を行う。    |
|     | 5 | 配属先が行う各種の活動を強化するため、新たな視点で助言・提案を行う。        |
-

# 障害者支援の現状

## 障害者支援の現状

障害のある方が街を歩くと、周囲から差別的な言動を受ける光景を目にすることは珍しくない。都市部より地方の方が多い。障害のある方は、家で一生を過ごす方も多く、家族が子どもを育てることも珍しくない。学校を卒業しても福祉施設がないため、**家で過ごす人が多く社会参加できる機会がない**。学校は、障害程度で分けられ、入校試験がある施設もある。就職支援制度はあるものの、全体的に認知度は低く機能していない状況だが、年々障害者雇用を増やすため活動をしている。

## 進路イメージ



※○○センター：王が施設長として運営している施設

※社会開発省：日本でいう厚生労働省



# 就労支援の現状

## 就労支援の現状

ヨルダン国内の失業率は、約18%（日本の失業率は約2.4%）と高く、就職するのが困難な状況である。また、ヨルダンの土地柄として部族や家族といった近親者を優先的に雇用する方法で採用されることも珍しくない。障害者の求人が求人票として一般的に出回らない中、障害者雇用の推進を進めるのは難しい。日本より法定雇用率が高く、法定雇用率を満たさない企業には罰則が設定されているものの、機能していない。しかし、世界的有名チェーン店では積極的に障害者雇用を行っており、店内の清掃業務をしている姿を見ることができる。



## まとめ

新型コロナウイルスの影響により世界で活動していた青年海外協力隊は日本へ一時帰国しました。現在は、国により派遣が緩和される見通しとなっています。ヨルダンでは、感染者数が増えており、外務省発表（10月30日現在）によると感染危険情報がレベル3となっています。そのため、ヨルダンへの渡航にはもう少し時間が掛かりそうです。

中東地域にあるヨルダンは、首都は日本と殆ど変わらない生活を送ることができます。また、中東＝テロのイメージが強いかと思いますが、中東の中でも国内情勢が安定している国です。

活動は、道半ばですが日本にいてもできることはいっぱいあります。これで終わったわけではありません。多くの事を学ぶことができて、とてもいい経験です。本来ならば、コロナ禍でも活動が出来れば良かったのですが、命があつての活動ですので次回に向け準備していきたくて前向きに捉えています。

今回の発表ですが、もう少し図、表、写真を使って直接話したかったのですが、何か質問等ございましたらご連絡いただければ幸いです。

文章が多い資料になってしまい申し訳ありませんが、ご理解のほどよろしく願いいたします。